

## 令和8年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 10	公益目的事業 19
主査名	宮崎智視 神戸大学教授	
研究テーマ	地域社会における公共施設・社会資本についての実態調査と計量分析	
<p>本研究では以下の三つの研究を進める。</p> <p>最初に、地域社会を支える公共施設の実態調査である。具体的には、空港ビル会社による地域経営の実態について把握する。近年、地域活性化を目的にコンセッション方式による空港運営の民間委託が推進されている。しかしながら、地域活性化がより必要とされる地方空港では、旅客数の少なさなどから民間委託が成立しにくいとの課題もある。そのような空港では地域活性化に向けて新たな取組みが求められるといえよう。</p> <p>次に、地域における社会資本の生産効率性についての分析である。日本の社会資本の生産性については、近年は生産性が回復しているとの研究が発表される一方、依然として地方において低迷が顕著であることが指摘されている。しかしながら、生産効率性についての研究はほとんどなされていない。</p> <p>最後に、個別インフラとの効果についての計量分析を試みる。具体的には、なにわ筋線におけるサービス水準と交通手段選択について検証する。なにわ筋線は、2023年3月に開業した大阪駅(うめきたエリア)と、JR 難波駅及び南海本線の新今宮駅をつなぐ新たな鉄道路線として、2031年開業を目指し整備が進められている。なにわ筋線の整備により、関西国際空港や新大阪駅へのアクセス性の向上や大阪の南北都市軸の強化などの効果が期待されており、こうした大規模な鉄道ネットワークの新設が地域社会にもたらす効果を分析する。</p> <p>研究の方法について、最初の空港ビル会社の実態把握では、地方空港における地域活性化の取組みの方向性に関する示唆を得ることを目的に、先述のような政策が打ち出されるよりも前から事業を通じて地域活性化に貢献している空港ビル会社に着目し、その実態の調査・分析を行う。具体的には、茨城空港、宮崎空港、および下地島空港における取組みを取り上げる。</p> <p>次の社会資本の効率性分析では、かつて主査である宮崎が取り組んだ研究のデータをアップデートすることで、どの地域で効率性が低いのか、またその要因が何であるのかを明らかにする。</p> <p>最後の鉄道の新規路線の開設については、アンケート調査によって得られた個票データを用いてコンジョイント分析を行うことで、既存の鉄道サービス水準と比較し、どのサービス水準が選択されるのかを分析する。さらに、シナリオ分析により、どの路線にどの程度の人流が移行するかを予測する。</p>		